

2月23日に第4回コロナワクチン勉強会を開催しました。詳しいことは、待合室に置いてある「ゴー!つばさ号外」や当院ホームページの「コロナワクチン勉強会 ゴー!つばさ号外」をご覧ください。きたく存じますが、今回も大勢の方がお越し下さりました。本当にありがとうございました。

低調に終わった定期接種

2月28日でコロナワクチンの定期接種が終了しました。さすがに8回目ともなれば、ワクチンの怪しさや怖さに気づく賢い人が増えたようで、接種率はすこぶる低調だったようです。皮肉なことに、それに呼応するかのようコロナ感染者、死者ともに増えず、関係者が期待?した「第12波」は到来しませんでした。接種を勧めた医師たちは、まさにピエロそのものですね。

ワクチン問題研究会

国はコロナ後遺症の治療の研究にはそれなりに力を入れていますが、ワクチン後遺症の治療は全くのスルーです。そもそもワクチン後遺症の存在すら認めていないのです。医師会や学会も同様です。先月、愛知県医師会主催の「コロナ後遺症治療」の講演会の偵察?に行き、「コロナワクチン後遺症の治療に関してもこのような講演会を開催して欲しい」と意見を述べたところ、その場が一気に白けてしまいました。お利口さんの医者たちは、「空気を読めない田舎医者のせいで、心地よい勉強ごっこが台無しになってしまった」と思ったのでしょうかね。三島由紀夫があの場合にいたら「僕はそんな連中とは口も利きたくないであります」と言ったと思います。

児玉慎一郎医師

ワクチン問題研究会は、とても重要な治験を行っています。コロナワクチン後遺症に対するビタミンD補充療法の有効性に関する研究です。本来は国が行うべきものを国が全くその務めを果たそうとしていないので、全国有志医師の会の医師が一念発起して立ち上げた治験です。私も詳しい経緯は知らないのですが、治験の結果を公正に評価してもらうためには、様々な厳格な基準をクリアしないとイケないということなのです。その結果、詳細は省きますが、この治験の発起人の一人でもある、兵庫県宝塚市の児玉慎一郎先生が月に1回、名古屋市内の患者さんの往診に来られているのです。先日、先生に電話で確認したところ、名古屋市北区、昭和区、滋賀県長浜市、大津市の患者さんの往診を行っているということです。トータル600km以上を自分で運転、朝の4時に宝塚を出発、帰宅は深夜になるとのこと。もっと驚くのは患者さんの都合がつかないときは、平日の夜中に往診することもあると言われるのです。

一隅を照らす光

その昔、比叡山延暦寺の開祖・最澄法師は「一燈照隅、万燈照国」と唱えられました。一隅を照らす光を灯せば、やがてそれが全国に拡がって多数の光が灯されるようになり、国全体に幸福がもたらされる、という意味です。まさに、児玉先生は一隅を照らす光なのです。その光を全国に拡げることこそが私の使命だと思っています。

健康セミナー

次回の「コロナワクチン勉強会」は、4月27日に行います。幸い、ワクチン接種が低調になっている今、求められるのは後遺症患者さんの治療と救済です。児玉先生の一燈を万燈にするには、コロナワクチン後遺症にとどまらない、国民の皆さんの健康増進を促進することが肝要です。そんな思いを込めて、次回からは名称を「健康セミナー」と改称します。その記念すべき第1回は、私が尊敬してやまない、南出賢一市長肝いりの「ワクチン後遺症改善プログラム」の中核を成す、豊田孝行先生にお越しいただき、ご講演を賜ることになりました。またとない機会です。皆さん、万障お繰り合わせの上、是非ともお越しください。一燈を万燈にしましょう!

つばさクリニック院長 石川 亨